

平成23年10月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	46,582,697 万円	100.0%	100.8% (99.4%)	44,316,045 万円	98.6% (97.5%)
食 料 品	38,452,696 万円	82.5% (83.9%)	100.6% (100.2%)	36,486,094 万円	98.1% (98.0%)
農 産	5,758,010 万円	12.4% (12.6%)	98.9% (98.9%)	5,428,363 万円	96.5% (96.8%)
水 産	3,746,176 万円	8.0% (8.1%)	99.8% (100.2%)	3,553,784 万円	97.3% (98.1%)
畜 産	4,461,395 万円	9.6% (9.4%)	99.4% (100.5%)	4,237,177 万円	97.0% (98.2%)
惣 菜	4,074,872 万円	8.7% (9.0%)	103.2% (102.0%)	3,867,017 万円	100.4% (99.5%)
日配食品	8,737,561 万円	18.8% (19.4%)	100.4% (100.5%)	8,298,948 万円	97.5% (98.0%)
加工食品	11,674,682 万円	25.0% (25.4%)	101.5% (100.0%)	11,100,805 万円	99.3% (98.0%)
生活関連	3,401,000 万円	7.3% (7.1%)	102.5% (96.4%)	3,232,351 万円	98.7% (95.2%)
衣 料 品	1,840,181 万円	4.0% (3.1%)	99.6% (97.5%)	1,791,103 万円	100.1% (98.2%)
そ の 他	2,888,820 万円	6.2% (5.9%)	101.5% (92.3%)	2,806,497 万円	104.2% (93.1%)

② 数 値

全店総売上高	46,582,697 万円	店 舗 数	4,136 店舗
総売場面積	7,842,795.3 m ²	総従業員数	209,996 人

店舗平均月商	11,262.7 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,795 円 (97.7%)
月間m ² 売上(前月)	5.9 万円 (5.8 万円)	平均店舗面積	1,896.2 m ²
月間坪売上(前月)	19.6 万円 (19.1 万円)	パート比率(前月)	75.0% (76.4%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 昨年のたばこ値上げによる反動により 9 月に比べ好材料となったが、先月比を若干上回る程度であった
- ・ 気温が高い日が続いた為に、10 月下旬より売込み強化する鍋物商材やホット商材は、気温とのズレが大きく低迷した
- ・ 行楽、行事、運動会等イベントが多い月ではあるが、前年を上回る程の需要はなかった
- ・ 台風と産地の冷え込み等で果菜類・葉菜類の品薄と相場の高騰で販売にかなり苦戦した

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 主力のみかんの相場安により、一品単価が上がらず売上減となった
- ・ 野菜は、前半の相場高が影響し苦戦したが、中旬以降、鍋物商材・サラダ商材を中心に入荷量が増え相場が急落した。
- ・ 果物は、入荷減のりんごの売り込みが出来なかった。みかんの食味が悪く柿・梨以外は前年割れとなった

○ 水産

- ・ 震災の影響で三陸カキの販売が出来ず代替産地で商品投入するが低調だった
- ・ サンマは、順調な水揚げと安定した相場で拡販できたことで好調だった
- ・ 生秋さけは水揚げが少なく相場高で品質も良くなかった。生さばも三陸沖の水揚げがない為に相場高で売上不振だった

○ 畜産

- ・ 放射能問題の影響等で牛肉は依然として不振であるが、月を追うごとに持ち直しつつある
- ・ 豚肉、鶏肉の鍋物商材を中心に売り込みを図り、若鶏もも肉、豚うす切り、つみれが好調だった
- ・ 加工肉は、お弁当材料のハンバーグ、ミートボール、ベーコン等が好調だった

○ 惣菜

- ・ かきフライは、鮮魚の生かきの出遅れや高値が影響し好調に推移した
- ・ 気温が高いことから、夏場主力のキクラゲ酢の物やサラダ類が好調だった
- ・ 未だに震災の影響か、焼き鳥、唐揚げ、天ぷら、フライが好調で揚げ物等の調理品や即食商品が好調だった

○ 日配・加工食品

- ・乳製品、パン、佃煮が好調。バターも品薄ではあるが好調だった。
- ・例年より気温が高いことや野菜の高騰もあり、おでん材料としては低調であるが、煮物商材としての動向としてはアップしている
- ・気温が高く推移した為に、鍋つゆ、すき焼きたれ、しゃぶしゃぶたれ、切り餅等の鍋物商材が不振だった

○ 「ボジョレーヌーボー・七五三」について

- ・2本・3本セットなどのセット物が好調。NB商品は売価ラインが下がる傾向にあり、解禁日には低価格のペットボトルの販売を予定。国産ヌーボーなども併せて予約販売して好調に推移している
- ・近年七五三は11月15日に限らず、早い地域では10月、もしくは11月の土日祭日に行なう傾向が増えたように思われる。七五三祝いのお寿司、オードブル等の関連商材の動きは鈍い

○ 「ハロウィン関連」について

- ・震災後の催事については比較的好調なことと、ハロウィンのイベント自体がメディアの露出度が上がったことでハロウィンの専用商品が今後も増える可能性がある
- ・ハロウィンパッケージのチョコパイ等、大袋関連が売上を伸ばした。通常商品の期間限定デザイン商品も好評だった

○ 「秋の行楽」について

- ・ノンアルコールビール、ノンアルコールリキュール、ワインが好調だが、発泡酒、清酒、焼酎は不振だった
- ・行楽弁当用のふりかけ、佃煮、海苔等は好調だったが、飲料は微減だった

以上